



Control Union Japan

Agenda

- 01 **Control Union 紹介**
- 02 **再生型農業が求められる背景**
- 03 **regenagri 基本解説**
- 04 **認証取得のプロセスと評価項目**
- 05 **グローバル市場での活用事例・実装の課題**

1920年 Control Unionオランダロッテルダムにて創業

船積検査からスタートし、様々な領域へ事業拡大

2009年 株式会社Control Union Japan 設立

第三者認証機関として事業開始

2023年 神戸ラボラトリー開設

分析事業および検査事業を展開

01 会社概要

Control Union

100 +

年以上の経験

80 +

カ国以上で展開

274 +

オフィス & Lab

農業検査の事業に始まり、物流、品質、認証、担保管理の分野において100年以上事業を展開してきました。現在は、認証、検査、ラボサービス、原産国から最終仕向地へのロジスティクスと品質管理を提供しています。

お取り扱いのある認証例

環境・社会・労働環境系



テキスタイル



バイオ燃料 & バイオマス

水産養殖 & 漁業

パームオイル

ツーリズム

農業生産工程管理

森林管理

02

再生型農業が求められる背景

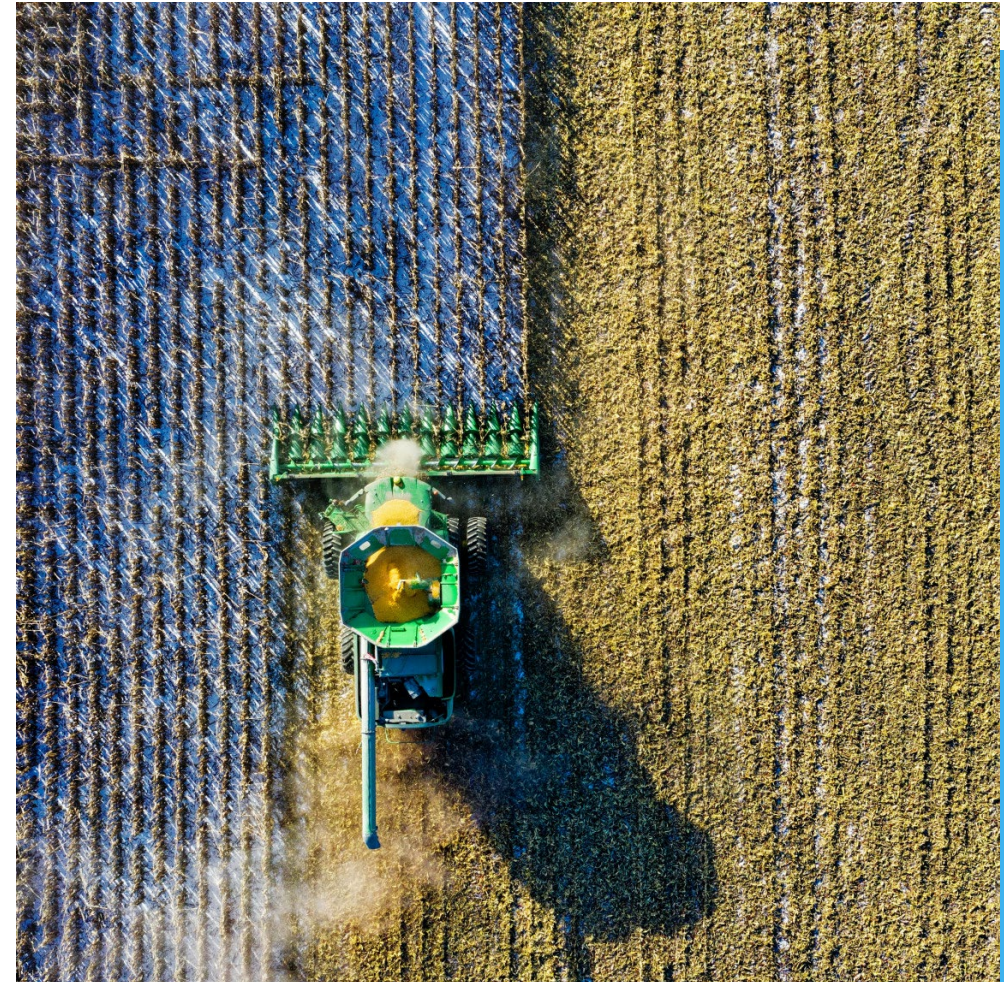
再生型農業が求められる背景

『近年の背景』

- ▶ 気候変動の深刻化
- ▶ 生物多様性の損失
- ▶ 土壌劣化・水資源の枯渇
- ▶ 従来型農業による環境負荷への懸念

『注目される解決策』

- ▶ 再生型農業（Regenerative Agriculture）
- ▶ 土壌の健全性を回復
- ▶ 炭素固定による気候変動緩和への貢献
- ▶ 自然資本を活かした持続可能な農業



再生型農業とは何か

『再生型農業（Regenerative Agriculture）とは』
自然環境を回復・改善しながら行う農業アプローチ

- ▶ 生物多様性の向上
- ▶ 土壌の健全性の回復
- ▶ 水質・大気の質の改善

期待される効果

- ▶ 土壌の健全性向上
- ▶ 生態系の回復
- ▶ 農業経営の安定化・収益性向上

→ 環境負荷の低減にとどまらず、
「プラスの価値」を創出することを目指す



サステナブルからリジェネラティブへ

【サステナブル】

- ▶ 環境負荷の低減
- ▶ 現状維持を目指す
- ▶ ネガティブを軽減する

【リジェネラティブ】

- ▶ 自然資本の回復・向上
- ▶ より良い状態へ再生を目指す
- ▶ ポジティブな価値を生み出す



03

regenagr基本解説

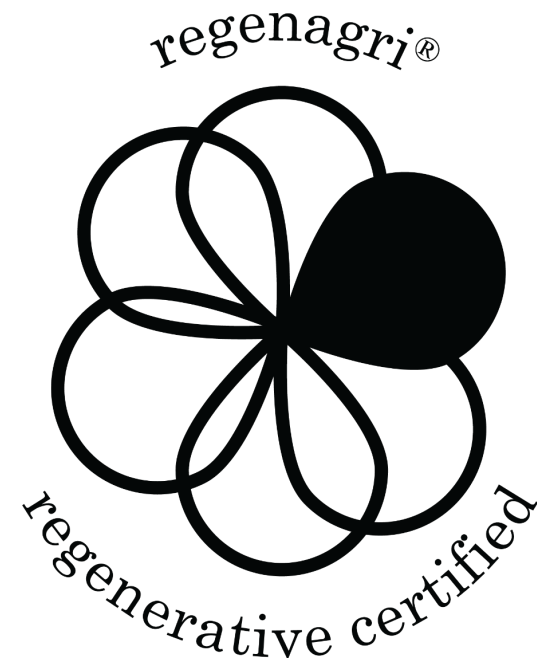
regenagrとは何か

「土壌の健康」を中心に据えた国際認証・評価プログラム

「何を実施したか」ではなく、

「どのような成果が得られたか」を評価する認証・評価プログラム

- ▶ 土壌の健康を重視
- ▶ 科学的・定量的な評価
- ▶ 継続的な改善を促進



04

認証取得のプロセスと評価項目

regenagri STANDARD Objectives

土壌の健康を中心に、5つのテーマを総合的に評価



土壌有機炭素・
土壌有機物の増加



生物多様性の向上



水資源・流域管理の改善



気候変動対策



農家の
経済的持続性

地域や農法に応じた柔軟なアプローチ

目指すのは、地域や栽培方法に合わせた 「より再生的な農業」への改善

- ▶ 農法を固定しない柔軟なアプローチ
- ▶ 多様な関係者による継続的な改善
- ▶ 成果に基づく評価を重視





ベースライン評価
現状の農場を評価・数値化



継続的改善計画の策定・実施
カバークロップ、不耕起・省耕起、輪作、
有機物活用 など



成果（アウトカム）の評価
土壌や生態系が実際に改善しているかを確認



-  土壌の健全性
-  生物多様性
-  水資源・流域管理の改善
-  気候変動対策
-  農家の経済的持続性





土壌有機炭素・土壌有機物の増加

 5.11. Soil Management : 土壌の健全性を測定する

(1) 土壌有機物の増加率

(2) 微生物活性 (Solvita CO₂ Burst)

(3) 陽イオン交換容量 (CEC)

(4) 土壌pH

(5) 炭素対窒素比 (C/N比) およびカルシウム対マグネシウム比 (Ca/Mg比)

 評価方法 :

土壌サンプリング記録および土壌管理計画

土壌サンプルを採取し、その分析結果を確認



生物多様性の向上



7.1. Biodiversity : 生物多様性

実施した生物多様性保全の取り組みについて、
その成果を示す根拠資料を提示する



評価方法：

生物多様性管理計画
モニタリング計画
評価方法（方法論）
モニタリング結果



水資源・流域管理の改善



5.10. Irrigation Efficiency Measures : 灌漑効率化対策

環境負荷の低減と作物収量の向上の両方に

有効な水管理技術を導入していることを実証すること

水管理計画および／または灌漑管理計画を策定・維持していること



評価方法：

灌漑システムについて、可能な限り目視による確認を行う
審査時に灌漑が実施されていない場合は、灌漑記録を確認する

05

グローバル市場での活用事例 実装の課題

グローバル市場 現在の状況

regenagri 認証農地

1,302,905 hectares

+250,000 farms



認証農産物

- 綿花、バナナ、カカオ、ゴム、パーム…

Benefits

- ▶ ESG評価の向上
- ▶ Scope3排出量削減への貢献
- ▶ ブランド価値向上
- ▶ 調達リスクの低減

Challenges

- ▶ 土壌分析・モニタリングコスト
- ▶ データ収集・管理体制の構築
- ▶ トレーサビリティ確保
- ▶ 科学的根拠に基づく情報開示





▶ 土壤分析

▶ 炭素算定

▶ トレーサビリティ

▶ 技術指導・営農指導

▶ 認証

THANK YOU

Contact Us

infojp@controlunion.com



<https://japan.controlunion.com/>

